

市場・生産者評価の高いピンク系グラジオラス 新品種「ひたち 9 号」(仮称)栽培マニュアル

茨城県農業総合センター
生物工学研究所・園芸研究所

1. 品種特性

- 1) 花色はピンクで、白の条斑とぼかしが入る、花径 11cm 程度の大輪品種です。
- 2) 露地季咲き栽培での到花日数は 95 日程度で、「トラベラ」より 4 日程度遅い品種です。
- 3) 赤斑病、首腐病、アザミウマ類、ハダニ類の発生は、「トラベラ」よりも少ない品種です。
- 4) 季咲き、抑制いずれの作型でも栽培に適します。

2. 球根の準備

- 1) 2~5 等級で、10a 当たり 2.7~3 万球を目安として用意します。
- 2) 球根入手後、すぐに箱から取り出し、腐敗球を取り除いてホーマイ水和剤に浸漬(200 倍液 30 分)します。
- 3) アザミウマ類防除のため、植え付け時にオルトラン水和剤に球根を浸漬(1,000 倍液 10 分)します。
- 4) 抑制栽培用球根は、球根消毒後 2~4 の冷蔵庫で、過湿を避けて貯蔵します。

3. 定植準備

- 1) 土質は選びませんが、日当たり、排水の良いほ場を選定します。
- 2) 保水、通気性を良くするため、プラウでの深耕や有機物の投入(2~3t / 10a)を行います。水田では過湿を避けるため高畝とし、可能なら暗渠や明渠を設置します。
- 3) 同じほ場では、4~5 年間は作付けを行わないようにします。やむを得ず連作する場合は、土壤消毒を行います。水田での栽培を積極的に取り入れ、イネとの輪作(2 年間は続けてイネを作る)を行うなどの対策をとるとよいでしょう。

4. 土づくり・施肥

- 1) pH6.0 を目標に土壤改良資材を投入します。
- 2) 基肥は定植 15 日前までに施用します。
- 3) 追肥は本葉 2~3 枚頃と本葉 4~5 枚頃、生育に応じて、肥料が不足気味の時に施用します。

標準施肥量(単位: kg/a)

成分	総量	基肥	追肥	
窒素 (N)	1.5	1.0	0.25	0.25
リン酸 (P ₂ O ₅)	2.0	2.0	-	-
カリ (K ₂ O)	2.0	1.5	0.25	0.25

5. 定植・栽培管理

- 1) 定植床は 90~120cm 幅とし、株間 15cm の 6~8 条植とします。4 等級以下の球根を用いる場合は多少狭く、また、ハウスやトンネル栽培では株間を広くとります。
- 2) 高温期の定植では、冷蔵庫から出庫後、球根を日陰に 1~2 日置き、高温に馴らしてから定植します。
- 3) 発芽不揃いにならないように、定植後に十分灌水します。
- 4) 半促成栽培では、定植後にマルチを張り、発芽後穴を開けて芽を出します。1~2 葉期と 5~6 葉期は、低温によってブラインドになりやすいので、保温に注意します。発芽までは日中 30、以後 25 を目標にし、発芽以降は十分な換気を行います。トンネル除去は、晩霜の無くなる頃の無風曇天日に行います。
- 5) ハウス抑制栽培では、新しい被覆資材を 10 月中旬頃までに被覆します。大球を用いた場合は 1 球当たり 2~3 芽発芽しますが、光線量を確保するため必ず 1 芽に整理します。
- 6) 本葉 4~5 枚頃、土寄せやネット張りを行い、倒伏を防止します。

6. 病害虫防除・生理障害対策

- 1) 健全な球根を用い、連作を避け、窒素肥料をやり過ぎないように注意します。また、密植せず、排水を良くして、残渣を適切に処理します。
- 2) 赤斑病、ボトリチス病にはポリオキシ AL 水溶剤(2,500 倍)を散布します。

7. 収穫・出荷

- 1) 切り前は第 1~2 小花の蕾が見え始めた頃で、高温期には通常よりかために収穫します。
- 2) 50 本箱を基本としますが、出荷市場に応じた出荷方法とします。

作型図(目標収量: 2,500~3,000 本/a)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作型												
ハウス半促成	(保温)										球根サイズ	
トンネル半促成	(定植)					(出荷)					2~3 等級	
露地季咲き											2~3 等級	
露地抑制	== 球根冷蔵貯蔵 == ~ 順次定植 ~										4~5 等級	
ハウス抑制	===== 球根冷蔵貯蔵 =====										2~3 等級	

